

門ナ4
號 3392
卷



東に如是虎宮と云ふ所記のり

書、何名水好

年々同好あり



心

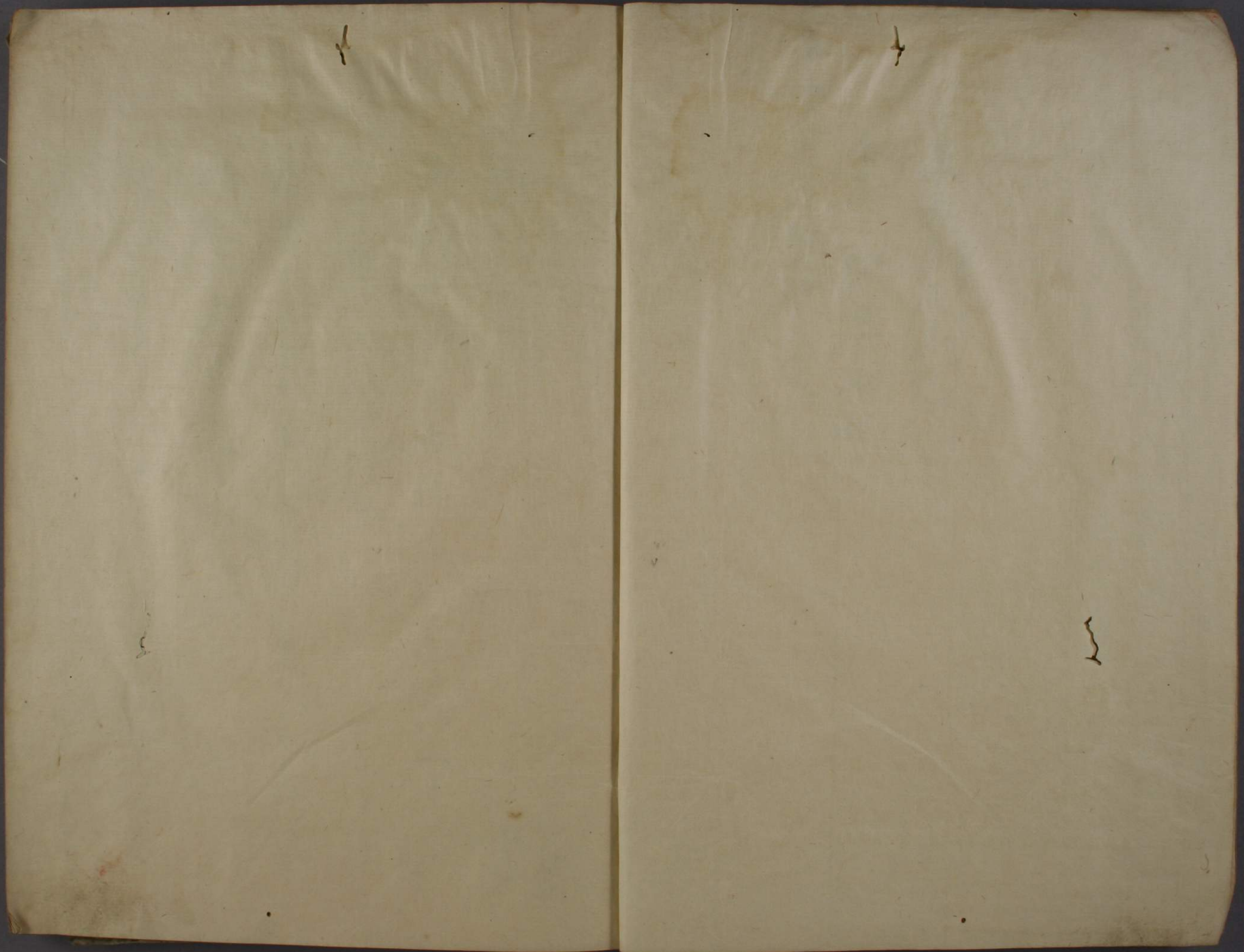
昭和三十二年一月廿日
高田早苗 贈

紙背



門ナ4
號 3392
卷

昭和三十二年四月廿日
高田早苗
贈



濱の松葉

御代の名子天保十三年といふと

かろ月れあつるなり。

柳營々まより御まよりあつるなり。

竹芝の濱邊の御苑に吾

宮御せうらうらうたふらふ

かろ字まこころなりよろこぶたふらふ



御詠。

おとさぐよ 吾墨染の袖 然るに

めしき乃露のいさよしと

然而 みるは日よちや ぬるるのいさよし

はるるの空も晴ぬ 乃ちあはれ

とせよ。 ぬるるのいさよし

とせよ。 ぬるるのいさよし

柳營より けしき 延 ぬるるのいさよし

後い ぬるるのいさよし 降 ぬるるのいさよし

はるるのいさよし 再 ぬるるのいさよし

止 ぬるるのいさよし ぬるるのいさよし

後

八重の葉を 拂はば 風がれ

高き ぬるるのいさよし

と遊び。ふふ。うた。あ。う。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
 う。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
 び。お。う。終。ふ。ま。よ。う。清。々。初。あ。ま。
 くれ。が。晴。ま。お。れ。出。て。岩。波。少。進。法。眼。
 庸。堅。安。藤。雅。樂。誠。之。小。山。田。外。記。與。清。
 い。は。次。々。々。お。ら。せ。も。ま。承。り。て。清。信。り。

考。の。う。ま。奉。人。々。装。束。ま。あ。合。あ。り。
 桎。田。遠。江。守。直。靖。ハ。濱。の。御。苑。に。待。
 ち。お。れ。ま。よ。う。お。ら。せ。も。承。り。て。出。ぬ。
 あ。朝。明。空。霧。こ。も。り。く。昨夜。の。う。ま。ま。よ
 引。お。い。れ。ば。ふ。の。ま。ま。お。ら。せ。も。承。り。て。出。ぬ。
 ち。が。お。ら。せ。も。承。り。て。出。ぬ。漸。々。晴。れ。
 ま。す。光。ひ。が。あ。ら。ま。い。り。ま。す。

神ノ佛ノ相（諾）はかみて。くふのいであ
ら（守）まもらせ終ふやまべし。御旅。

一に空にたつらりくま時をみんく
朝日のがさあまぐらけい

疾より御道志まの法（級）をひかきで
たまふ。くま御（出）のせま終ふつ。時
たぬぬとまうし。青士

お（行）きく。御（衣）のなる。麴塵（ちん）の御（ぎ）衣。
緋（文）の（白）るる。ハ香菊（ぎく）の御（文）花（五）条
う。あ（浅）ま（黄）色は雲立（た）涌（た）の御（指）袴（袴）と
たまふ。左右の御手（み）み。水晶（すい）の御（念）珠（珠）。
御（編）の（編）扇（扇）の（扇）の（扇）の（扇）。扇田（田）
終理俊徳。苦野（の）主税常章。西村左京
福重。三好正親長條。浅江（浅）主水孝友。

涉澄采女量友など。御輿のひたひた右よ。

は^供りうま^奉は^りす^く。真乗院の御^{おん}ら^ま宮

ら出^いこ^を終^おま^し。御^いま^り前^{まへ}追^おい^とう^る早^{はや}

ぬ^をの^り離^りれ^はた^ます^{べし}。不^ふ聞^{もん}遠^{とほ}く^な

少進^{せうしん}雅樂外記ハ肩輿^{かみこ}に^りて^は御^いあ

増上寺の山門^{さんもん}に^り出^いで

せ終^はい。濱松町^{はまのまつまち}に^り北^{きた}芝口町^{あしはぐちまち}に^り東^{ひがし}

庭^{にわ}を^たぎ^ひく。濱の御苑^{いのみえん}のち^ぢり^ぢ

御橋^{いのかし}に^り外廓^{ぐわいかく}の御^いは^り

終^はす。少進雅樂外記ハ肩輿^{かみこ}に^りて^は御^いあ

御供^{いのかみ}に^り從^{したが}ひ^ます。中^{なかつ}の重^{おも}し^な御^いは^り

過^あす。内^{うち}ね^の重^{おも}しの御門^{いのかど}に^りて^は御^いは^り

よ^ろし^にお^りさ^るの^よふ^はど。道の左^{ひだり}右^{みぎ}

經^へる^に官人^{くわんにん}たち^の最^{もと}

お多しの殿一。藤のづゝのま^纏た^り了^る廊乃
橋字渡^りせたまふと^し。御祿。

子年ま^まが^かる^ふ此^は汝^は子^は笑^はぬ^むむ
おも^うぐ^うう^ふま^ま乃^は蘇^はか^まみ

池の中^によ^のの御亭^はい^はせ^し終^ふり。
信濃のま^まら^るの侍従幸貫朝臣。近江
の上^に如^し遠藤但州胤統朝臣。新見伊

州正路朝臣か^かむ^む見^見た^たま^まひ^ひて。

柳堂^はる^るれ^れ御^はね^ねと^とら^らた^たる^るお^おま^ませ^せと
ふ^ふ傳^はく^くけ^けん^ん一^一終^はふ^ふち^ちれ^れ一^一。柳^は鷗^は
亭^はとい^いす^す標^は榜^はま^まの^のま^まれ^れ一^一を^を御^は
覧^{らん}む^むす^す。

必^はを^をく^く押^は部^は臨^はの^の一^一静^はる^ると^とま^ま
治^ちた^たま^まの^の御^は代^はの^のた^たま^まら^らた^たら^らむ^む

御詩のうゝ。

澹日微風水檻明。秋晴光景似
春晴沙禽也。窓思波暖戛々飛
鳴雪有聲。

御入るやうにたゞし。

立ちはるく清きりの松の木はるやう
わく帆かのうき新あたらし

満苑风光總不凡。青松如盖
覆仙巖。谁知咫尺是雲海。檐
角忽明雙白帆。

御床とこまあの磁の對の獅子の身
爐いろ。空燒くわの相まあるま。
まあるま。みちぬま。富ふ士し越こ龍りゆう
此ま時とき繪えしるふむだんりん。硯えんをお置お

具。清次子。白菊の文が臺たい。硯
具。小廣。蓋い。牡丹ばたん。唐たう草
時とき。筆ふで。立た。兔うさぎ形の
銅あがねの文が。篋あき。算あは。算あは。對たい。唐たう銅あがね乃
水みづ滴た。料りょう。紙し。短たん。冊ふみ。子こ。載のり。
。雲梯うんたひ硯。丸硯まるいん。青磁せいじの水みづ瓶びん。
。置おき。茶ちや。煎せん。茶ちや。子こ。な。

折をり。櫃びつ。つ。薯おこ。蕪よ。美え。や。の。え。い。な。
。清きよ。茶ちや。子こ。の。料りょう。
。盛も。進しん。少せう。進しん。遠えん。江かう。雅みやび。
。外そと。記き。同どう。煎せん。茶ちや。折をり。
。櫃びつ。物もの。賜たまは。成なり。島しま。圖ず。書しょ。頭かみ。司つかさど。直ただ。朝あさ。
。守まも。野の。晴は。川がは。院いん。養やう。信しん。法ぽう。印いん。ま。ん。ん。な。
。亂らん。統とう。朝あさ。臣しん。

柳營ヤまのお仰らまのむ音ね敬さ一。な
ふ奉れた奉く奉つれぬ物よ多の多め多る多じ。
ま添、和歌の御題添字添く添も添の添い。今日
あ仕め仕者奉の奉う奉は奉る奉。その者う者歌仕は仕る仕
ま限は限る限む限ら限る限。よ詠み詠く詠な詠る詠よ詠よ
。御音々音ま音の音む音ね音さ音お音ら音せ音ぬ音ぐ音ら音ぬ。
其其の其菊其契其子其秋其月其前其管其弦其池其水其久其澄其

の三三題三な三め三祝三の御三盞三と三共三に三と三ら三ま三
あ敢さ敢せ敢し敢は敢び敢。始始る始る始の御始題始の始
御御詠御字御。

けけよけといけつけがけ葉けれけ杯けのけらけもけぐけり
子子年の秋子字子く子み子く子契子ら子む子
正路朝臣の正ま正り正歌正。

かかみかちからかぬからかのかむからかなからからからか

溪のみるゑんまこのふぞかゝり

ふりゆくは酔をむむる花むろ

ふりゆくは酔をむむる花むろ

まゝいりりりり。

海門秋色瑞光融。

僊駕遠臨瀆苑中佳節幸陪

文酒宴叨

息近接

大王風。

まゝいりりりり。

清晨邀駕值重陽水樹添輝

勝景長何用登高寻坡例陶

然勸醉榮花觴。

司直朝臣。

濱苑雨歇正重陽。迎接

香輿池上堂。海色遙浮龍象

袖山容。近映菊花觴。一宗粹

德歸

盟主しん子こ古こ高たか風かぜ属ぞく

法王ほふわう吾われ六む三さん生せい缘えん不ず淺せん陪はい歡くわん幸しやう仰やう

白毫光

くらくらやまの竹芝のうらせは

なみよこえたれくまのみんを

のしやまの浦の濱ゆふのせぬ

身を新波にくらくらもたると

誅之

何幸陪遊入御園。十分秋霽似

春暄松梢白鶴呼。千歳也認承

平扶續恩。

押鷗亭上玉欄前。碧水如藍雪。

羽妍一片風光更幽絕。紫藤橋。

畔夕陽天。

てして園中をみそたをみんぞむおあく。

お下もまやゆふ。正路朝臣。司直朝臣。養

信法印。陪從一なる。木村又助喜彦

清先ささるは法供のうま奉つる。草葉た露つゆ

を拂まちる。西の方なれ橋をわ

くせたまひ。八景山りみ登せしひ

了。清涼。

海山の色を記つるみ渡こもや

そなた類た無ら園ひ生ちけれ林

清馬む不ま過場てを川をわられば志ん新

錢座 せんざ 所 ところ あり。ちひ ちひ 死 し 池 いけ 一 いち の の

子 こ 花 はな ざ ざ の の 咲 さ み み くる くる ち ち。四 よ 季 き 咲 さ 云 い

種 たね ち ち なる なる づ づ。富 とみ なる なる ち ち なる なる づ づ の

物 もの 流 なが る る 中 ちゆう 加 か 賀 が 草 くさ 志 し け け

零 ぜろ 餘 じゆ 子 こ の の 大 だい なる なる づ づ。冬 ふゆ なる なる づ づ の の 流 なが

延 のび び び 廣 ひろ なる なる づ づ。大 だい なる なる づ づ の の ち ち け け

有 あ る る。或 ある ち ち なる なる づ づ。山 やま 菜 さい 萹 ひん。山 やま 査 さ 子 こ。赤 あか

實 じゆつ の の お お び び 結 むす び び なる なる。こ こ の の ち ち け け

珍 めづ び び の の ち ち なる なる づ づ。鳥 とり なる なる づ づ の の 池 いけ 乃 なり ち ち け け

阿 あ づ づ なる なる づ づ なる なる づ づ。水 みづ の の 色 いろ

静 しず なる なる づ づ なる なる づ づ。浪 なみ なる なる づ づ。底 そこ

量 りやう なる なる づ づ なる なる づ づ。景 けい 物 ぶつ の の ち ち け け

躰 たう なる なる づ づ。冬 ふゆ なる なる づ づ。鴨 かひ

數 かず 多 おほ なる なる づ づ。集 あつ なる なる づ づ。聞 き

し〜く。御詠。

鶯^{うい}考^{こう}鴨^{かひ}のなま^{なま}り^り天^{あま}のう^うは^は〜

あまねく及^{およ}ぶた^た〜生^な〜

御^ご之^の方^{かた}の道^{みち}み^み菊^{きく}圃^ぼの葉^はい^い〜

み^み〜ま^ま〜な^な〜の^の〜^為〜^咲出^で

多^た〜子^こ移^{うつ}〜^植〜^一町^{まち}〜

子^こ代^よ子^こ契^{あて}〜^色〜^艶〜^交〜

せ〜る〜た〜や。観^{くわん}音^{おん}堂^{どう}の靈^{れい}像^{ざう}も。

慈^じ覺^{かく}大^{だい}師^しの御^ご化^けな^な〜^堂〜^掛〜

〜^廻〜せ^せれ^れ繪^え馬^ば扁^{へん}額^{がく}か^か〜い^何〜^狩〜

野^のの^名〜志^しん^ん花^は〜^筆〜の^のあ^あ〜^も〜

御詠。

山^{やま}深^{ふか}〜い^い〜^心地^ち〜^補陀^た〜^洛〜

〜^其〜^影〜^仰〜[〜]〜

わが^海 糸京^限 うねこころいれぬはつた

^{唐土} きろりやうまきやうねくみむ

玄^島 さん^毛 しよま^毛 せん^山 さん^三 じよう^條 の^図 な

ど^経 じゆう^{富士} けん^見 さん^山 じゆう^雨 じゆう^降

さん^山 じゆう^あ じゆう^柄 じゆう^管 じゆう^根

西^西 の^空 じゆう^み じゆう^渡 じゆう^た じゆう^た

富士^山 の^嶺 の^雲 の^隠 じゆう^山

姫^姫 の^か じゆう^所 じゆう^為 じゆう^や

じゆう^嶺 の^邊 じゆう^傳 じゆう^首 じゆう^山 じゆう^左

方^方 じゆう^下 じゆう^や じゆう^た じゆう^た じゆう^池 の^は じゆう^ま

北^北 じゆう^方 じゆう^お じゆう^は じゆう^焼 や^く じゆう^溪 あり。

ま^沙 じゆう^石 じゆう^平 じゆう^最 じゆう^清

ま^代 の^あ じゆう^海 じゆう^土 じゆう^満 じゆう^く

か^堂 じゆう^庭 じゆう^あ じゆう^不 じゆう^竈

のけづもまきねがしるありねたて
ういやく。いつの来々々もいし
し。いやくして調出る五色乃
塩^{折櫃}進せしき。御^供
もは^{仕奉}まをさる少進^{以下}の^輩
の^例様^の白塩^櫃つ^給
うさやぬ。きんぎょの御^給

る。御^給。
わが袖の志^たま^まく^まく
あまの宮^屋子^とま^りえ^つ
海^幸如^御亭^ふく^志い^けせ^給
ふ。い^れ御^床ふ^る富^き子^時た^る文^文
臺^の視^子お^まく^こひ^ろさ^る詩^箒
た^{短冊}な^まを^上る^{蜻蛉}形^の文^綴

を置れしめ。御詠。

みるづちまのしるしを再び教へて

ハ重のしんかちのかげりさるる色に

與清のなむる。

生るるのいあるとかがりてむるや

海は先づみの海の深し

此所のさやま。おもむくはるるの類

とひかたな思ひしよもく。さるるや

字は述べたる。此彼の紅葉は

くまをるる。深出たるをみる。正路

於此。

時節逢御苑の秋乃初紅葉

まやまち待はるるや露もほる

再りの押臨亭にいそきて

よこの漢やまよの言を端をいひて
めたまふ。正路の臣。

海苑妍清駐法輪菓囊菊

盞祝佳辰回頭應動思郷

念花頂山邊秋色新

おもひ出くいつのらんをいふ海に

御苑のま州一々々のんをいふ

直靖。

々々といつる子年の葉をいひて

よろは代やする御園生の乃

ふの時一あれ此れをいふあり

子一お置あまの葉の

御饗膳まある少進陪膳は候

修理主税等年長を後以て

方まゝ。竹田伊豆守斯綏朝臣。伊奈遠
江守忠吉朝臣。永井佐渡守直正朝
臣。岡村弥右衛門直史。白井采女房輝。
かぞへ^何ちふ^此ふくれ^掌つ^行の^行こ^行と^行も^行お^行こ^行た^行ひ^行さ^行す。
役送の^ひ人^ひこ^ひみ^ひ事^ひお^ひら^ひを^ひら^ひす^ひち^ひま^ひす^ひ。一。
ま^ひの^ひつ^ひと^ひま^ひと^ひて^ひ後^ひ。養信法印御^前ま^前く^前を^前
筆^えう^えら^えん^えら^えま^えら^えり^えあ^合つ^在た^在る^在花^在

う^えら^えめ^え。ヤ^えま^えぐ^えの^え終^えど^えい^{彩色}ら^{彩色}と^{彩色}も^{彩色}出^{彩色}
た^えら^えむ^え。目^驚お^嘆は^嘆ら^嘆る^嘆も^嘆わ^嘆や^嘆ち^嘆あ^嘆ら^嘆る^嘆。さ^嘆
ま^方ふ^方一^方は^方の^方ま^方ら^方こ^方の^方た^方ら^方松^松の^松梢^梢子^梢。
終^終の^終ひ^終ら^終か^終ら^終ま^終れ^終る^終字^字い^糞の^糞ぐ^糞と^糞お^糞か
せ^其こ^其あ^其ら^其ま^其く^其れ^其ば^其。法^儘印^儘さ^儘か^儘ら^儘ら^儘ら^儘
一^此出^此た^此ら^此る^此ヤ^此ら^此も^此ら^此も^此ら^此い^此ま^此ぐ^此い^此ま^此ぐ^此い^此ま^此ぐ^此い^此ま^此ぐ^此
ま^此ら^此る^此御^御歌^歌あ^御ら^御ま^御ら^御こ^御の^御ら^御と^御。正^正路^路朝^朝臣^臣

のそよのりなれるよ。

おきくまの子代らよ呼なる有

木の梢こゝろらあ白鶴鶴

と遊あそびたる御墨おんすみづま。御おんま乃

ふらひり。た壁らむ方りや。御おん

茶ちや所の掛字字も京極きやうごく黄門わうもんの新しん苑えん人

よ贈お消ろり息や文めく奥な。

位ち吉よの木の根ねあふしはは

祈いのる内いのげを子こ代しろから

こゝ歌うたあり。つらつら續つづ後ご撰せん集しゆの神かみ祇ぎ

の部ぶは載事こと書きる。位ち吉よ祈いのるや

らまよ求ん子この歌うたとと神かみ主ぬし徑みち國くによ

ままよ掛り在るるよよ。土ど風ふう呂りよらかれる

妙めう門もん霰せんの金かねの湯ゆけこのこらら。木の波なみ

池の御料なるを。その御設

あき多の持夫等。符ひい。龍の口邊

すより水なる。浮。此處。引くはせ

かき。段。子の。慢。引く

く。所。緒流蘇。以。括。揚

中の間。錦。敷。御座。所。一。

舳の方。所。なる。人。敷

た。よ。人。差。安倍東儀

季蕃。太神。山井景富。太秦。東儀。元鳳。回

常城。伶人等。衣冠。整。樂

無。合。預。待。なれ

る。艦。方。依。間。み。だ。そ

は。巻。正路。朝臣。司

直朝臣。養信。法印。庸堅。直靖。徳。與

清。しらとものみらぐ。なる。先まづんし

て。音ね取とりて。蘇そ合ごうの急きふ奏そう。終はふ。

宮みやるやうの。もろ。あそ。直ちか靖せい珠しゆ之

を。あやうけ。元げん鳳ほうハ琵琶びわ。景けい富ふハ核かく

笛ふえ常じょう城じやうを。ひ。ち。る。ま。季き蕃ばんを。たたんここを

は。仕しの。う。ま。なる。次つぎなる。

宮みやを。やうせうの。み。え。る。吹ふを。し。も。ひ。ん。し。ぐ

管くだん絃げんの。を。ひ。く。は。仕しの。う。ま。なる。越え天てん樂らく

の。残残りの。か。ら。う。ま。る。竹たけの。あ。そ。ひ。

蘇そ莫ま者しゃ。千せん秋しゅう樂らく。五ご曲きよくの。間かん。

宮みやの。御ご待たい歌か。人ひとの。あ。ひ。は。最さい多たの。御ご

詠ぎよ。

糸いと竹たけの。浪なみの。松しょう風ふう。声こゑの。添そへ。

ん。も。み。ゆ。く。舟ふね遊あそび。の。こ。

調 しらべ
去々々々 添
水の秋風心あり

座
去々の所 座
さささ 閑
あや 揚
かむ

市 いち
の~~~~

玉鏡波平 菴画舟 鸞絲鳳管

奏子秋 此聲頼送 重城去解

散台階 夙夜憂

心路朝臣

嘗聞大堰 泛三舟 今日弦歌 継
舊遊錦鷓 輕飛池水濶 銀鱗頻
躍海園秋

い。外。い。さ。り。の。~~~~。秋。の。お。も。い。そ。~~~~

よ。り。~~~~。似。ぬ。~~~~

司直朝臣。 △碧池彩鷓弄 人間重九節

琴 ひ
笛 ふ
の の
か か
み み
み み
十 十
~~~~  
~~~~  
~~~~  
~~~~

去調く添ふ水の秋風人あきそ
まのほ座よ座ま座ま座あ揚か揚心

市の~~~~~

玉鏡波平 菴画舟 鸞絲鳳管
奏子秋 此聲 額送 重城 去解
散台階 夙夜憂

心路朝臣。

嘗聞大堰 泛三舟 今日 弦歌 继
舊遊 錦鷓 輕飛 池水 濶銀鱗 頻
躍海園秋。

い。外の~~~~~ 秋のあきももそ
よりの 似ほぬの 舟の 碇びの 歌

司直朝臣。
△碧池彩鷓弄 秋晴 數曲 管絃 向晚 清豈料
人間 重九 節飽 聞天 止頻 伽聲

琴の 笛の わかみみわかるか 心の あり

送舟。鸞絲鳳管。
送重城去。解。

舟。今日弦歌。繼。
池水瀾。銀鱗頻。

秋の夜ももろ
の舟楫びこの歌

秋晴數曲管絃向晚清豈料
飽聞天止頻加聲

みわさるゝはあま

拙意の附りかた一を落す
とるゝはあまの
市に古所四曲知るる

可直

おのゝむすめ日ざかり

のゝさくもくま向くさのしるも

更更しりしそのあのおとを

養信法印。

忘忘しむるや子等子了了むめ廻らあ會

とる能清舟の糸竹乃

か忍くなみあ栗なれ栗つれて

あ仰ふ仰るるまま糸竹

庸堅。

け竹伏のふ嬉く閑く閑

た類る響も調ささるる

減之。

瑶池波穩彩舟輕輕簫笛奏來

和玉箏一曲千秋樂樂終終関関又

與清。 聞襖霜棹歌聲。

清 ^{管弦} あまびの ^海 舟 ^子 ころは ^{侍候}

い ^乗 び ^怒 る ^ん と ^り

その ^{糸竹之音} ね ^岡 を ^賞 かし ^つ や ^魚 は ^い む ^こ 魚 ^さ ぐ

清 ^思 け ^波 く ^躍 み ^の せ ^ら ぬ ^る ま ^ら ぬ ^め して

今日 ^持 を ^し づ ^く け ^り 御 ^げ 樂 ^{がく} 無 ^む 筚 ^ひ

と ^胡 陽 ^{やう} 丸 ^{まろ} 雲 ^{うん} 龍 ^{りゆう} 丸 ^{まろ} 麒 ^き 麟 ^{りん} 丸 ^{まろ} 樂 ^{たか} 浪 ^{なみ} 横

笛 ^{ふえ} ハ ^{ちやう} 重 ^{やう} 陽 ^{やう} 丸 ^{まろ} 篳 ^ひ 篋 ^{けつ} ハ ^ち 子 ^こ 鳥 ^{とり} 丸 ^{まろ} 筚 ^ひ 篋 ^{けつ} ハ ^ち 吉

野 ^の 琵琶 ^{ひび} 天 ^{てん} 壽 ^{じゆ} 丸 ^{まろ} 竹 ^{たけ} 筒 ^{つつ} 吹 ^ふ け ^る ま

中 ^{ちゆう} に ^い 樂 ^{たか} 浪 ^{なみ} と ^い 魚 ^{うい} 々 ^さ や ^り の ^い め ^え る

々 ^{しゅう} よ ^せ り ^て 十 ^{じゅう} 年 ^{ねん} あ ^さ ら ^し む ^の 時

宮 ^{みや} 師 ^し 終 ^{しゆう} 學 ^{がく} の ^が 爲 ^に 増 ^{さう} 上 ^{じやう} 寺 ^じ 子

く ^げ け ^り ま ^ら ぬ ^ま 時 ^{とき} 止 ^と り ^ま 止 ^と り ^ま 止 ^と り ^ま

たち^見のち^間桃丸とく^奉や^公は^公の^公を
た^公ら^公し^公る^公。

御^公簾^公中^公の^公宮^公に^公都^公よ^公り^公と^公く^公下^公。

を^公い^公ひ^公し^公る^公に^公さ^公ら^公せ^公ら^公る^公を^公い^公ひ^公し^公る^公。

よ^公ら^公し^公る^公に^公あ^公ら^公せ^公ら^公る^公。

宮^公に^公ま^公の^公ら^公せ^公た^公ま^公し^公ら^公る^公を^公い^公ひ^公し^公る^公。

其^公後^公

宮

西城^公に^公ま^公ら^公し^公て^公た^公ま^公し^公る^公を^公い^公ひ^公し^公る^公。桃丸^公に^公御

を^公い^公ひ^公し^公る^公に^公あ^公ら^公せ^公ら^公る^公を^公い^公ひ^公し^公る^公。

た^公ま^公し^公る^公。

宮^公の^公御^公笛^公に^公あ^公ら^公し^公る^公に^公あ^公ら^公せ^公ら^公る^公。

桃丸^公に^公あ^公ら^公し^公る^公に^公あ^公ら^公せ^公ら^公る^公。

つ^公ら^公し^公る^公に^公あ^公ら^公せ^公ら^公る^公。

ふらして。御調きつる従きつるいなるい。
如何如何の宿次世々幸々いなるいけむ。
都帰ののち後此坐名々村なるい。
ちいち願ち願なるい。
あ敢々本々主なるい。
御い簾い中の宮々御禱いなるい。
樂い。

浪い々い々い遊い々い々い。
つた賜たり恐れるいハい々い々い。
か元の元々い々い々い。
海いのい月い々い々い々い。
靖いのい々い々い々い々い。
ま捧々い々い々い々い々い。
御い臣い々い々い々い々い。

つぐたのまはふぐの月ふささきて

清年きづるま糸林のそ急

舟舟子等の舟頃もこのまわり欲よ

清は土あふま。正路の居。おろちま子傳仰

催催よふらまらるる隨もつる清代水々ま

部つハ宝舟たづなもつる頃もつる清代水々ま

ののくくく頃は連はれたる。御詠。

清代永たづなと言祝祝ま言ま言あ言ま言清清

は不盡の宝の舟水々水

重陽ちゅうやうのま節ちち節なれどま粟の粉餅もい

や進の時ま逢あ逢ひ物れ共ま種々も種々き

や進あ進ら進せ進たま進ら進る。船の中は清慰た

た下た下ま下れ下清慮の慮ら慮お慮ろ慮ま慮ら慮る。船

よ下あ下ら下ま下ら下る。ま下ま下ら下る。再再あ再ら再ま再ら再る。山

登りてせたまふと。ちか雪なるの隠れ
つゝのねむりもなれは。脚跡。

ふあまの山をそれともみるまのめ
ゆあまのふらふらとふらふらと
玄衣のまわりの磯をばつと。
海鳥の御言のよおはまて。暫
あまのなみきよと後みか。

月波のよと照る。こころの
金なる志満たむの。水跡。
静かな海原をく。打寄
波のひらけ月影の。

又御の
高亭面海望逾奇吟到落霞
紅盡時忽見暮波揺素月水

晶毬滾碧琉璃。

正路朝臣。

冰鏡開來海面輝。潮風稍

透。嗔衣金波萬頃明如畫照

看雲帆掛月飛。

夜々々々帆影々々々々澄々々々

金々々々波々々々々々之の浦

誅之。

菊呈佳色笑重陽。不是尋常

一樣黃。豈料齊門濫吹客優

具酌得萬年觴。

海波閃澹夕陽收。已見天邊

灑氣流。幾點歸帆挂明月一

片清光萬里秋。

おぼろげに
不覚
かざり
底
まじり
駒
つ

與清。

常世
重
浪
而已
の
月光

金の波のよりの海岸

けは
實
神
伊勢
の
言
つ
る
ま
の
人
の

化
成
の
枝
毎

葉
末
た
ひ
ら
の
光
沢
他
所

お
め
の
花
よ
り
西
路
の
花
の
か
ら
ま

た
よ
し
ら
の
花
の
か
ら
ま

お
も
の
高

御
梅
号
の
文
字
か
ら
ま
の
か
ら
ま
石

堅
石
御
代
平
な
り
の
御
徳

志兆す著ふ著あ著さ著せ著ぬ著ふ著と著。た著ふ著と著
可愛可愛め可愛ぐ可愛た可愛る可愛。かん感ト感ち感も感さ感る感あ餘ま餘あ餘
。與清。

此處 大御酒進 賜
さ此處ら大御酒進ま賜お賜ら賜み賜ま賜ま賜あ賜り賜。ん賜こ賜み賜た賜ま賜よ賜
ち賜め賜ぬ賜。

柳提管提と提こ提ま提よ提り提清提庭提ふ提ト提ひ提や提け提産提字提
櫃櫃ま櫃つ櫃の櫃な櫃も櫃。お多ら多く多ま多あ多り多を多た給ま給す給る給
中更に更ま更あ更る更の更は九乃九松九の九折九櫃九ま九つ九
ら合あ合ま合を合菊合の合花合形合ま合の合し合。それ合も合
二重重重か重さ重る重た重ま重る重も重。ま重の重重重九重の重内重
心用に用ま用あ用る用。中精に精ま精あ精る精の精の精
ま彩あ彩る彩の彩志彩な彩。ま彩あ彩る彩。ま彩あ彩る彩。

分調 納 在 目
あや 奇 清 者 物 夫
菊 菜 蔓 の 他 花 添
給 母 清 深 池 慮
宮 の 所 俳 諧 歌 松 の 添 あり あり あり

九 枝 添 あり あり あり

茶 の 枝 添 あり あり あり

正路朝臣。司直朝臣。養信法印。斯綏
朝臣。忠吉朝臣。かきま。み 御酒 給
御酌 あら。抑 やむ 御 あり あり あり
御酌 給 あり あり あり

後花園院 天皇の 御代の 天酌 あり あり
稀々 然 事 閑 あり あり あり

た^給ま^者さ^面る^目りのめ^何ぼ^何く。か^此あ^此る^此ら^此い^此れ^此る
及^及て^及る^及。清^清亭^亭山^山。な^なる^なせ^せた^たま^まふ^ふる^る。清^清亭^亭
の^後う^後し^後ら^後ふ^後る^後。い^いま^いぬ^ぬ松^松あ^ある^る。山^山田^田の^の
田^田傳^傳ひ^ひの^のさ^ささ^さ。お^おさ^さま^まら^らる^る。小^小稻^稻ね^ね龜^龜
つ^付ま^付る^付。豊^豊年^年の^のさ^さる^る。入^入る^る。た^たる^る田^田の^の面^面。
鳴^鳴子^子ひ^ひま^まさ^さく^く。た^たる^る。な^なさ^さい^い。最^最可^可憐^憐
る^る。と^とま^まら^らる^る。や^やか^かた^たの^の田^田面^面。お^おお^おら^らう^う

子^子。鳴^鳴子^子あ^あり^り。ひ^ひ引^引板^板。あ^あり^り。さ^さら^らう^うあ^あり^り。か^か
あ^ある^る。鳴^鳴子^子ひ^ひ引^引板^板も^も款^款ふ^ふよ^よみ^みく^く。お^おお^おら^らう^う
この^物た^たの^のう^う。切^切竹^竹。と^と以^以て^ては^はく^くれ^れる^る。と^と板^板
も^以て^ては^はく^くれ^れる^る。の^差け^別ち^有え^有ん^有あ^あら^らう^う。と^此花^花
な^なひ^引く^引こ^こい^いな^な。と^俣の^俣う^う。と^思や^思お^おら^らう^う
む^中。中^中ふ^水車^車。な^なる^な。と^解ま^解ら^らう^う。と^解ま^解ら^らう^う
流^流。と^掛ら^掛う^掛る^掛。と^設ま^設ら^設う^設。と^置け^置た^置ら^置う^置

為^{うつて}た^溜ま^あり^溢て^ころ^覆。く^おの^くる^この^ま。
繩^かの^おの^つら^引ひ^れて^おの^たつ^立る^やう^様。
た^巧ら^成み^あめ^ま。ら^づハ^物の^ま。
く^えん^彦も^いい^し。歌^や山^田も^僧。
ら^よみ^漢か^土ぶ^書る^葉山^子と^又え^たる^は。
是^はれ^から^かし^五六^百年^前の^書。
は^追あ^難ち^夜の^れ觸^頭の^から^のや^焼ら^串な[。]

や^焼か^令せ^嗅と^書た^るよ^据れ^ばか^令せ^るか^よ通
ら^して^かし^とま^いつ^るや^らの^ま。は^れ
ち^よら^んで^糖も^ら。や^らの^まの^ま。
ゆ^らせ^とり^けの^まか^令せ^るら^おら^る。
む^らの^まの^ま。葉^山子^の事^とお^思ふ
人^もあ^らあ^らや^らの^ま。そ^のの^ま。
の^側ら^田舎^榎の^ま。大^木た^たる^ま。

織オリ殿ノおさミまシつツ著シテ綾アヤ錦ニシキなど

やク様ノおミ物モノのノ織オリ手テ共アイ作シ桃モモ

文エ殊シ等ウのノおミいイ管カンたタ躰タカラ七ナナ躰タカラ珍メダカたタ

子コのノ御ミ覚サトかカ興キョウトトたタ預ゾクおオ

てテ織オリ設セツおオくクたタ最サイ段ダン子コ様ヤウのノ物モノ

のノいイ織オリちチるルいイ最サイ大ダイおオふフれレるル箆ヘラ

こコのノ物モノみミまマ進シンのノせセたタるル御ミ津ツ路ロ

たタ巧コウみミおオ織オリあアちチるル給ケルたタぬヌるル

新ニかカつツ錦ニシキおオさサん

正シヨウ路ロ朝チウ臣シンおオ仰ホウのノむム音オンをヲ傳ツクへテ庸ヨウ

堅ケン直チク靖セイ誠セイ之ノ與ヨ清セイみミ御ミ濱ハタのノ織オリ

縮チヂム二ニむム給ケルたタ貴キたタ

かカ恐コソいイ申マウのノ延ノビ詞シ

かカ唐タウ衣イたタ袂タビ狭ヒヤたタ

身みそい^{如何}をむむ。與清。

い^古のあ^跡を^傳は^すて^られ^ばあ

あ^織ふ^成なる^後録^の形

薬圃^の梅林^のや^まの^邊を^経て^られ^ばあ

御亭^のや^まを^終ふ^間に^はあ^のや^まを^此方^のあ^のや^まを^此方^の

子^の篝^のあ^のや^まを^所に^焼か^すか^らぬ^燈

る^の火^のを^列ね^らせ^る書^のま^増

は^のや^まを^覺て^られ^ばあ^のや^まを^此方^のあ^のや^まを^此方^の

御亭^のの^為相^の郷^の古^今集

を^置て^られ^ばあ^のや^まを^珍し^くあ^のや^まを^筆

あ^のや^まを^跡に^あの^やま^をあ^のや^まを^賞

る^のや^まを^限り^てあ^のや^まを^硯管^の料^紙の^短

あ^のや^まを^丹を^置て^られ^ばあ^のや^まを^具の^花籠

あ^のや^まを^尾花^の籠^のあ^のや^まを^膳の^刺の^在

最興 有 ありまふむのやうに

の玉の御瓶子。おれ玉の御瓶蓋

ふり。名酒進まのせりふ。清者者

茶の歌あくなき。清流。

い。海情。まのちまひが汲知る

玉の杯取はきり

茶碗物。茶碗物の

種々の蔭名酒

給共。杯其。名

任撰。正

路仰。與清

茶形。花時。在給

。

手重の代及の

よん 延ぶと ちくの 蓋

葉 普 の 御 亭 八 田 家 の 七 軒 作

成 農 耕 の 具 設 置

圍 爐 裏 の 自 在 子 籠 子 掛

花 盆 最 可 愛 菓 菌

富 物 の ち 鬚 籠 籠 數 多

置 並 ぐ け だ ま け ち や 臆 進

ま ち ち ち ち ち 遍 昭 僧 正 の 秋 の 心 み ち

こ い ひ ち ち ち ち 出 ち ち ち ち ち

御 詠

納 神 の 秩 籠 ち ち

葉 山 の 心 ち ち ち ち ち ち ち

遊 燕 亭 の 御 座 宋 人 范 安 仁 の

葉 の 籠 蓮 の 形 御 掛 画 ち ち ち ち

ヤセのひ。南京なんぎんの古漆ふるうるし付つの六角むかくの蓋ふた
の櫛かみ子の香燵かうと置おせの多おほきつり。上の
棚たなふら枝珊えださん瑚珠こしゆの置物おきものあり。下の棚たな
ふら雲うん鞆たもとの蒔繪まきゑの机つくえのうろ志しるる子こ
の櫛かみ子こけ置物おきものあり。此こはやままの進
せ終しまつつなり。此こ外ほか今日けふ進しんの進せ終しまつつ
種々しゆしゆ物ものの教からははるるててあり

び。中島なかつまの御亭ごてい子この帰せたまたまははるる。
何なにももこれこの御ごあらひひ。詞ことば。
みみみみははるる。雜まじ。
柳やなぎ管くだせせるる。けけたたままををせせたるる御ご
殿どのの月つき前まへ管くだ絃げん子こ。
宮

清きよき月つき子こ每まままの浮るる夕ゆふ波なみの

調 雲 ぐり通ふ糸舟の春

おやりの御うらら。

珠樹玲瓏 夜色妍 伶官盡 是

月中仙 洋々奏到 太平樂 仰

祝傳 考 萬億年。

池水久澄。

雲 々々々々 元 々の鏡さうけらむ

不易 のささぬ 春の 子代の 影の ぞら。

榮 契 子 秋

伊賀守正路

けよりの 秋 蕙の 露の 咲 榮 如

花も 子 年の 秋 契 する 心

圖書頭司直

春と 天と 同 くれし 同 くれし 咲 榮の

花契ちぢらむいく契の秋

法印養信

来遠きま契の年の秋秋ちぢらむ契の
ちぢらむ遠のふむまふ露の契秋

白井房輝

い喜れもや茶頼の契の契の契
い不れ易の契の契の契の契

鈴木恭重

子代契の契の契の契の契
末契の契の契の契の契

法眼庸堅

下契水契の契の契の契の契
は契の契の契の契の契の契

遠江守並清

此頃の清代を有と嘆せしむ
十年の秋乃たむら 成るまで

安藤徳之

ふ代の秋をちよめて嘆る菊の花
實類 無 色もやるともや

小山田與清

この代のふ代葉代とささげしむ

秋ふ秋りーがく葉ゆー
月前管弦。

正路

池水の魚にうらまえて船あそび

月を渡ゆく系竹の音

司直

秋風ふくそらに系竹の

き^調く^清ま^行み^行ゆ^行く^行月^行の^行お^行さ^行り^行ま^行

養信

系^調竹^調の^調き^調り^調ま^調く^調づ^調も^調お^調る^調ま^調く^調く^調
月^調の^調お^調り^調人^調や^調ま^調く^調く^調く^調く^調

房輝

系^調竹^調の^調き^調り^調ま^調く^調づ^調も^調お^調る^調ま^調く^調く^調
く^調く^調の^調月^調り^調ー^調あ^調ら^調る^調あ^調ら^調る^調あ^調ら^調る^調

恭重

引^調き^調ま^調く^調ま^調の^調月^調り^調ま^調く^調づ^調も^調お^調る^調ま^調く^調く^調
く^調く^調の^調月^調り^調ま^調く^調づ^調も^調お^調る^調ま^調く^調く^調

庸堅

系^調竹^調の^調き^調り^調ま^調く^調づ^調も^調お^調る^調ま^調く^調く^調
月^調の^調お^調り^調ま^調く^調づ^調も^調お^調る^調ま^調く^調く^調

壺靖

調
きつねの月つきのきつねきつねのきつねきつね
きつねきつねのきつねきつねのきつねきつね

誅之

系竹のきつね調のきつね調のきつね調
秋のきつねきつねのきつねきつねのきつねきつね

與清

こころのきつねきつねのきつねきつねのきつねきつね

池水久澄
目量のきつね澄のきつね澄のきつね澄

正路

量
きつね量のきつね量のきつね量のきつね量
池のきつね塵のきつね塵のきつね塵

司直

山根のきつね常磐のきつね堅磐のきつね生

い〜よ〜む〜ま〜庭みやの池いけ水みづ

房輝

常とこ石いし水みづ深ふかい〜の松まつ影かげ移うつ

池いけの鏡かがみハみぬ聲こゑもた〜

恭重

忍しの〜の松まつ例れい〜
畫え〜
澄あや添そ

子こ年ねん〜か〜れ池いけの〜波なみ

庸堅

子こ代しろ〜
澄あや色いろが〜
池いけ水みづ〜

みぢを〜れ松まつ影かげ〜
移うつ〜

直靖

新あたら〜
吹ふ〜
松まつの梢えだ〜
風かぜ〜

池いけの〜
心こゝろ〜

誠之

百代よひつもさむな新舞うたの如水みづなり

うつるや春はるのふ代の杉すぎのけ

與清

む尤つゝいよのいよ清きみぬらん

ふ濁ゝぬ代よの永ながき例なり

夜よや漸々く更なる隨ま人定時る鐘の

ありうちおととぬまま赤ぬ仕り奉はらうれる

人ひともい如何の眠か思く思く思く思

清用い心ろしいそ清思の急急いく急

いまひ松代の侍ト従る統統御御居居正正路路御御居居

かかゝ對る面清思た思る思

柳柳管管ささままの極け極れ極清思も思た思り思山山々々

高高く海と海深深き思清思は思く思く思く思

ししら由な由れ由る由。み迷く迷も迷く迷く迷

空管共とよ調〜納いたる在。た合らせ

た然ら而〜然る道。還還御御たら〜

まい。少進法眼。雅樂外記。御御あり

は仕の奉〜假御假の宮かりは著

の許せたまりは。丑ひつまのり〜許

〜御跡。

〜語〜言〜傳〜

市代市も月の々々々あ遊〜び〜

真乘院真典典應應上人。安立院善教上人學

善和尚。滯滯栄栄和尚。定園法師山泰

阿高森阿茂茂一郎。待待付付つつななりて。め

〜還御還たら〜言祝祝〜

たまらず。遠遠江江をを清清流流の事〜此〜

〜被行行〜追は追〜帰〜参〜

てすぬ。十の物あはく。密賢むつけん大僧だいそう正まま
う上がぐるたがひ。

宮の御みめん面ぶ目くくつつちちやや。宗しゆ

門かの榮えい耀ぎやうああんんのの下下及およむむ。

ち何ああののここららははま増まま。随随のの喜喜

のの御みのの御み神かみをを。湿しつ

るる。貴貴たたまま清せいんんななやや。

宮みや御みははのの御み記きををああげげたたるる 持もち
たた。

おおららややちちままくくななままししくくままひひ。巨こ細こののああのの

たたるるままはは。興きやう清せいははけけののああつつれ

ととああららせせととああれれハハ。破やぶたたるる。在あるる。松まつのの

ま下さ下いいららるる。庭にわののおおちちたたるる。死しつ集るるなな

ととああららハハ。最もももかか。忍しのぶぶ事ことなな。

沈むるに浮木の氣のよれまじり
幸逢ふるの海のやまらふあふり
那



右一卷天保壬寅重九奉

後

奉頂大王御駕於是演御

圖承

殿命所録也

臣小山田外記平與清謹識

天保十三年の九月はくろし小山田興清がうま
ふりまはる浪北津園の記とまづらんや
免ぐくは勢た白ひてやぐくくまの松葉たを
ぐみすづこくくあらせしおらりそそは幸大武
ちをどりか足門もろそまの松葉はまどはく
本ゆくけく風ふくそはくそく松方り
くを流すかたかこくゆか

巨松藤雅集識之

藤垣重忠のつた

ゆかり切

くわうね集と

もろかふら

あ

Handwritten wavy line

Handwritten wavy line

11

12

